

科目名	地理学の基礎 I		科目分類	□専門科目群 ■総合科目群	
			全学科	□必修 ■選択	
英文表記	Geography I		開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年	
			開講期間	□前期 □後期 □通年 ■集中	
ふりがな	いちかわ たかし		実務家教員担当科目	修得単位	2単位
担当者名	市川 聖		実施方法	■対面のみ □遠隔のみ □対面・遠隔併用	
授業のテーマ	地理学概論				
到達目標	本講義では、地理学を系統地理的な視点から、地理学に関連した学問を探究する。また、地理学の様々な分野を取り上げ、現代社会の課題に直結したテーマを分析しながら、実践的かつ総合的な地理学を学ぶ。				
授業概要	1.地理学の知識を応用して、諸事象を分析する資質を養う。 2.地理学的な分析手法を習得し、それらを応用できるようにする。				
授業計画					
第1回	ガイダンス	地理学とは何か 秋田と地理 地理学の分析手法			
第2回	地誌学概論1	グローバリゼーションの動向			
第3回	地誌学概論2	発展途上国の課題と地誌			
第4回	世界の生活文化と民族	生活文化・民族・宗教			
第5回	民族・移民の地理	民族問題と地域紛争			
第6回	自然環境と地理	自然環境・世界の気候と地形			
第7回	環境とエネルギー資源	環境問題・エネルギー資源			
第8回	人口と食料	人口問題と食料問題			
第9回	世界の農業	農林水産業・国際農業			
第10回	世界の工業	工業・立地論・鉱工業			
第11回	地図と地域調査	地理に関する調査方法			
第12回	商業と貿易	観光業・消費生活・貿易と国際協力			
第13回	都市と地理	都市地理学概論			
第14回	農業・農村と地理	農業地理学概論			
第15回	まとめ				
第16回	定期試験				
授業時間外の学習	1. 授業前には教科書の該当箇所必ず目を通してください。分からない用語は調べてノートにまとめておいてください。(1.5時間程度) 2. 授業開始前に、前回講義内容の確認テストを行うこともあります。前回講義の復習をしっかりと行ってください。(1.5時間程度) 3. 日常的に地理的(地形、風土など)な観察を行うように心がけてください。 4. 地域社会の課題について新聞やニュースを通して考えるように心がけてください。				
履修条件 受講のルール	特にありません。 地理学の基礎 I では「系統地理」、地理学の基礎 II では「地誌学」を中心に講義します。				
テキスト	竹中克行編著『人文地理学』ミネルヴァ書房(2009) とうほう『新編地理資料 2021』				
参考文献・資料	講義中に紹介しますが、以下の文献は地理学の基礎的な知識を学ぶことができます。 帝国書院『新詳高等地理』				

	<p>上野和彦・椿真智子・中村康子『地理学概論』朝倉書店(2007)</p> <p>浮田典良『地理学入門<改訂版>マルチ・スケール・ジオグラフィ』原書房(2010)</p> <p>竹内淳彦・小田宏信『日本経済地理読本(第9版)』東洋経済新報社(2014)</p> <p>小林茂・宮澤仁『グローバル化時代の人文地理学』放送大学教育振興会(2012)</p> <p>John A.Matthews・David T.Herbert(森島 済・赤坂 郁美・羽田 麻美訳)『地理学のすすめ』丸善出版(2015)</p>
成績評価の方法	<p>総合評価【定期試験(50%)、レポート・小テスト(30%)、事前課題(20%)】</p> <p>上記評価項目を基にして総合的に判断します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。 ・出席確認時に不在だった場合は原則としてその回は欠席とします。 ・授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。 ・授業の理解、および予習復習が充分であるかを確認するため、授業中に小テストを行うこともあります。 ・レポート課題は授業内に指示します。
オフィスアワー	講義時間前後
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	
学生へのメッセージ	<p>日常的に「考える」という作業を心がけてください。知識を暗記するだけでなく、現代の社会で実際に知識を応用することを意識してください。「地理学の基礎Ⅱ」では、日本のみならず世界の地誌を解説します。世界を見渡すような学びにしてください。</p>